

# 令和5年度 学校評価報告書

園名	本庄幼稚園
----	-------

## 1 教育目標

・明るく元気な子	・心豊かな子
・意欲をもって遊ぶ子	

## 2 重点目標

「人とのつながりを通し、共に育ち合う子の育成」
～人と関わる力を引き出す環境構成や 援助のあり方を探る～

## 3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策	4 学校関係者評価
教育課程	<b>異年齢混合保育において4.5歳児がともに育つ保育の工夫</b>  ・安心、安定した環境の中、自己を発揮し、満足感や自己肯定感が味わえる保育内容の工夫。 ・4.5歳児が互いに思いや考えを出し合い、認め合い、自ら行動しようとするのできる環境を作る。 ・人と関わる力を引き出すための教師の援助のあり方について考える。	 ・職員間で協力し、幼児一人一人の発達を丁寧に読み取り、思いを受け止めてきたことで、それぞれが十分に自己発揮することができた。 ・4.5歳児が互いに関わり合い、思いを寄せあえる場や時間を意識し、大切にしてきた。保育の進め方を工夫することで互いの刺激となり、認め合える関係を築くことができた。 ・人とつながる力を身につけられるよう“関わろうとする”“関わるができる”保育の工夫を意識してきた。	 ・少人数での混合学級の良さが生かされている。 ・4月から子ども達の姿を見て、一人一人の成長がとても感じられる。生活発表会での自信を持って話をしたり、表現したりする姿から、これだけのことができるということに大変驚かされた。自信をもって取り組んでいるのがよく分かる。 ・一番大切なこの幼児期に丁寧にに関わり、保育をしてもらっている。
学校園所連携	<b>地域を基盤にした連携活動の工夫</b>  ・中学校区学校園所連絡会において情報を共有する。 ・幼小交流、3園交流を通して、幼児の育ちに向き合ったり、交流後の教師同士の意見交換を大切にしたりする。	 ・相互参観をすることで、幼稚園で育つ力が小学校ではどのような力につながっていくのかを意見交流したり、情報の共有を行ったりする機会となった。 ・幼小交流、3園交流を計画的に進め、事後研修を行うことで幼児理解を深めた。幼児の育ち、課題等も共有することで、日々の保育につなげていくことができた。	 ・回数は限られてくるかもしれないが、各学校園所の担当者同士の情報交換が大切になってくる。 ・小学生や3園交流等、いろいろな場で人と接する機会があり、心豊かに育つことができていると思う。いろいろな経験ができるところが本園のよいところである。
保護者・地域住民との連携	<b>園運営、園行事への保護者や地域の参画の促進</b>  ・家庭や地域への情報発信において幼稚園教育への理解を得る。 ・親と子が触れ合い、仲間づくりができる交流の工夫。 ・家庭や地域社会と連携した危機管理体制の推進。	 ・園だよりやクラスだよりの定期的な発行、日々の活動写真の掲示を通して、遊びから幼児にどのような力が育っているのかを具体的に知らせていくことができた。 ・子育て支援について、回数は少ないが、それぞれの内容を充実させて実施した。今年度初めて参加された家庭もあり、新たな親子同士のつながりとなった。 ・地域防災訓練は貴重な機会となり、実際体験することで、一人一人の防災意識が高まった。	 ・保護者の方も子ども達の家庭での様子や行事での取り組み姿を見られたら、満足されているに違いない。アンケートの結果にもつながってきているのではない。 ・地域の未就園児家庭に人づてに声をかけているが、対象児が少なくなってきたことは仕方ないことだと感じる。

(別紙様式 2)

人権教育の推進	<p><b>人（自分）を大切に、自尊心を育む保育の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一人一人の自尊心を育む保育を創造し、教師の関わりや援助を工夫する。</li><li>・命の尊さや大切さに気付く保育内容を創造していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分や相手の気持ちを大切にしよう促し、一人一人と丁寧に向き合うことで、友達を認め合う姿へとつながっている。幼児の課題となるところを否定するのではなく、どのようにすれば伸ばしたり、自信をつけたりできるかを職員間で考え、関わりを工夫してきた。</li><li>・飼育栽培や生活の様々な場面で命の尊さについて考える機会を持つようにしてきた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども達は自分で考えて意見を言うことができている。これは自尊心が高いということである。</li><li>・5歳児が4歳児を支えたり、4歳児が5歳児を認めたりする姿を見ていると4.5歳児のつながりがしっかりとできていることを感じた。</li></ul>
---------	--	--	--

## 5 総合的な評価結果

友達との関わり幅が少ない分、地域の方や小学生、3園交流会で他園の友達との交流を深めていく中で、様々な思いや考えに触れることができ、幼児の刺激にもつながっていることを改めて感じた。少人数ではあるが、様々な経験を通して4.5歳児がより確かな関係を築き、この関係が人と関わる力の土台になっていると思われる。

次年度はそれぞれ就学や開園する認定こども園へ進級し、新たな人間関係を築いていくことになるので、今年度育ててきた力を十分に発揮できるように支えていきたい。

## 6 総合的な学校関係者評価

- ・少人数の園の特色を生かし、地域の人や小学生とのつながり、3園交流会での友達との関わり等、人と接する機会も多く、子ども達が心豊かに育っていることがよく分かる。様々な体験を通して、一人一人の成長がしっかりと感じられ、今までの保育の成果が出ている。
- ・5歳児が4歳児を支える姿、4歳児が5歳児を見て憧れる姿だけではない4.5歳児のつながりの深さを様々な行事を通して見る事ができた。
- ・幼稚園が閉園することは寂しいことであるが、幼児期という大切なこの時期に少人数保育の中でしっかりと自分のことを話せる子に育ててもらっていると感じる。